



東地中海地域ニュース

レバノン：国軍のパレスチナ難民キャンプ攻撃

(6月4日付現地紙)

1. レバノン国軍は、ナフル・エル・バーリド難民キャンプ内の「ファタハ・イスラーム」に投降を呼び掛けつつ包囲網を強化し、更に空からのヘリコプターによるロケット攻撃や海上の小型艦艇からの砲撃も使い、3日までに「ファタハ・イスラーム」が設けたキャンプ内の拠点の多くを破壊した。6月1日以降の戦闘で、国軍側の戦死者は9名、「ファタハ・イスラーム」側は幹部3名を含む15名以上が死亡し、70名以上が負傷したと見られる。しかし、「ファタハ・イスラーム」は依然投降を拒否し、キャンプ内のモスク等から国軍に対する狙撃を断続的に行っている。キャンプ内に残っている一般難民は3,000人程度と見られる。
2. 3日朝、ナフル・エル・バーリド難民キャンプで「ファタハ・イスラーム」と共に戦っていたイスラム過激派団体「ジュンド・シャーム」の幹部が死亡したとの報道が流れたことを受け、3日夜、南レバノン県サイド近郊のアイン・ヘルワ難民キャンプで、「ジュンド・シャーム」のメンバーがキャンプ出入口周辺のレバノン国軍部隊に対し銃撃を始めた。銃撃戦は同日深夜まで断続的に行われ、国軍兵士2名が死亡した。アイン・ヘルワ難民キャンプ周辺では、2003年頃から「ジュンド・シャーム」と国軍との衝突が発生していた。